

令和2年度 第1回 宮城県土砂災害発生危険基準雨量検討会 議事要旨

1. 日時 令和2年12月16日(水曜日) 13:30～15:30

2. 場所 宮城県庁8階 土木部会議室

3. 出席者

委員:

岩手大学 農学部 森林科学科 教授 井良沢 道也

東北大学 大学院 工学研究科 教授 風間 基樹

国土技術政策総合研究 土砂災害研究室 室長 中谷 洋明

国土交通省東北地方整備局 河川部 河川計画課 建設専門官 (代理) 山影
修司

仙台管区気象台気象防災部予報課 土砂災害気象官 (代理) 佐々木 秀樹

石巻市総務部危機対策課 防災専門官 (代理) 柳瀬 伸二

丸森町総務課 消防防災班 (代理) 石田 真士

宮城県総務部危機対策課 (代理) 鈴木 伸一

宮城県土木部防災砂防課 課長 堀米 健

(敬称略)

4. 配布資料

- ・ 検討会の次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 検討会設置の趣意
- ・ 検討会の規約改正案
- ・ 委員名簿
- ・ 本日の議事資料(本編、別冊)

5. 議事概要

- ・ 中谷委員:地すべり災害について、「地すべり」は法的には警戒情報の対象であるため、降雨による地すべりであれば検証対象とした方が良い。
- ・ 事務局:地すべり災害の扱いについて検討する。
- ・ 中谷委員:宅地造成地で発生した災害について、排水設備のない場合や、ない場合で放置されているのであれば再自然化しているとして、繰り返し込むことができるのではないかと。
- ・ 事務局:今回の検討では、宅地造成地で発生した災害の扱いについて検討する。
- ・ 中谷委員:CL対象災害にについて、令和元年の東日本台風による土砂災害事例が大半だと思うが、この事例でCLを引くと基準が大きくなりすぎて誤った安心感を与えてしまう恐れがある。災害について、尾根から崩れたか下流で崩れたかを確認して精査したほうが良い。下流で崩れたものの方を対象とした方が良い。

- ・ 事務局：令和元年の東日本台風による土砂災害事例で CL をひく場合には、代表的なものを選定し基準が大きくなりすぎないように検討する。
- ・ 風間委員：宅地造成地で発生した災害について、保全対象地域で発生した災害は対象とした方が良いのではないかと。
- ・ 事務局：土木とは異なる部署ではあるが、宅地造成地で発生した災害も蓄積していくことが大切である。
- ・ 風間委員：災害の精査の観点として、災害の規模感が重要ではないかと。大きなものを外していないかと。
- ・ 事務局：集中的に発生するという観点を従来通り踏襲している。個別事例で災害規模の観点で追加した方が良い事例があれば追加で検討したい。
- ・ 風間委員：CL 対象災害を検討する際のメッシュサイズについて、従来の 5km メッシュの格子単位で検討するとあるが、1km メッシュサイズで運用開始したことを踏まえると、将来的にも 1km の格子単位での検討が必要ではないかと。
- ・ 事務局：CL 設定の対象メッシュのサイズを 1km 格子単位で区切ってしまうのは災害の規模を考慮すると狭いため、従来の 5km 格子サイズで災害発生メッシュを設定する。
- ・ 堀米委員：CL 見直しにより、従来よりも空振りの抑制を図るが、それでも空振りが発生してしまうことが懸念される。他県で空振りを抑制するための手法などの例はあるかと。
- ・ 事務局：災害発生メッシュでは、超過回数ゼロを目標することもできるが、他県ではほとんどやっていない。超過頻度を抑制するために 10~10 数年に 1 回超過する程度を目指すことが多い。それでも予測で判定した場合、その頻度想定を超える場合がある。また、災害発生メッシュでは、小さい基準を設定せざるを得ない場合がある。その場合、CL 超過回数が多くなりがちのため、空振りをゼロにすることはできない。
- ・ 堀米委員：短時間の大雨等により土砂災害警戒情報が発表されても 2 時間未満で解除するようなケースが今年度も数回あった。この様な事例は今回の見直しにより改善されるかと。
- ・ 中谷委員：大きな雨が降った後に短時間雨が降ったことで災害が発生するようなケースもある。CL 超過するような事例を一律に除外したり、CL を調整したりすることは困難である。基準よりも運用側で実務的に調整する方が良い。
- ・ 堀米委員：今回の検討対象期間は令和元年 1 1 月までとしているが、今年度土砂災害発生はないものの土砂災害警戒情報の発表はあった。検討対象期間を延長したほうがよいのではないかと。
- ・ 事務局：ご意見を踏まえて今年度も含めて検討するかどうか判断したい。
- ・ 中谷委員：今年度のデータを追加する場合、データの精査に時間を要するため、その点を考慮して追加の有無を決めたほうが良い。

- ・ 井良沢委員長：災害捕捉率について、見逃しとなった事例についてどのような理由により見逃しとなったのか（降雨要因や雨の降り方等）確認したほうが良い。
- ・ 事務局：確認する。
- ・ 山影委員代理：収集した土砂災害事例の中に道路で発生した土砂災害は含まれているか。
- ・ 事務局：道路区域内で発生した災害は含まれていない。
- ・ 山影委員代理：道路で発生した災害が含まれていないのであれば、除外メッシュの検討における交通網の有無の扱いは。
- ・ 事務局：交通網と法面との関係の整合性がとれるように整理する。今回扱う交通網とは、道路密度データ（県道や市道を含むが登山道は含まれない）や鉄道データである。
- ・ 中谷委員：道路やその法面から離れた外側からの現象による災害もあるので、そのあたりも考慮した方がよい。
- ・ 柳瀬委員代理：大雨警報や土砂災害警戒情報の解除のタイミングは改善できないものか。
- ・ 中谷委員：現在は現地の状況を確認の上、解除を行っている。これに関しては技術開発が必要であり現段階においては難しい。直轄の工事再開基準などが考えられる。
- ・ 山影委員代理：現行は工事再開、事務所職員の点検開始が、大雨警報（土砂災害）の解除となっており、自治体の求める土砂災害警戒情報の解除のタイミングよりもさらに遅い。
- ・ 井良沢委員長：土壌雨量指数の計算を全国一律の係数で計算していることも要因の一つといえる。
- ・ 石田委員代理：現行の発表基準は5kmメッシュ単位で設定されているため、白石市と隣接するメッシュでCL超過して土砂災害警戒情報が発表されるケースがある。
- ・ 事務局：CLを災害発生メッシュとして設定されたメッシュで、起こりうる。市町村界を含むメッシュでの災害は、発生自治体側と隣接する市町村側の同一5km内で、同程度のCLを引いてしまうことになる。尾根を挟んで反対側になる場合は、地形や地質が異なることも想定されるため、5kmメッシュ内全てを当該のCL対象災害でCL設定するのが良いかは、確認しながら検討する。

以上